

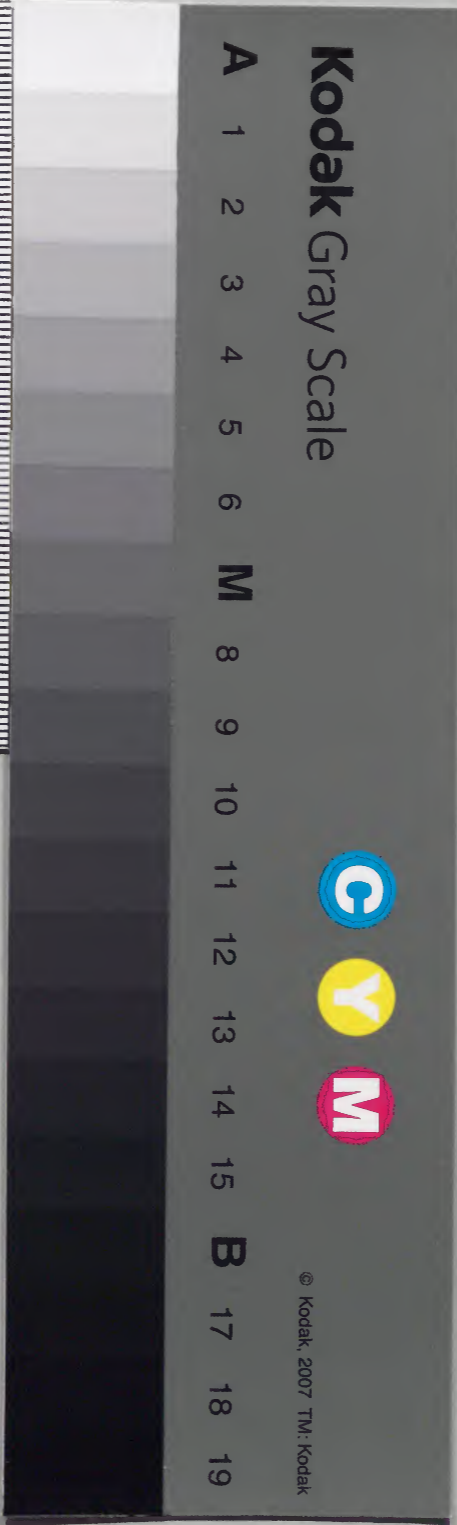
手
の

和書門		
一七六八五	一七八五	九三冊
函	架	類

庫文閣内		
二〇二函	二三五架	二七六八五
函	架	冊
和書類		

内閣文庫		
番號	和	17685
冊數	53 (12)	
函號	202	350

新獻
百廿



明石

二十六日

自二条院御教奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

若成徳不付奉事

淺野 庫





明石

二十六歲

雨瓜猶不休事
自二条院御使未事

雷落廊燒事

又夢見故院給事任任吉神導可避北浦之由事

三月十三日明石入道儀御舟奉迎諒氏君事

相朝夢

諒氏君乘船渡明石浦給事

書御文令歸京使事

明石入道參諒氏申昔物語事

四月更衣裝束事

古琴彈廣陵散事

和學講談所

淺草文庫

明石入道恭御前彈琵琶事入道語吾娘能彈琴之由事入道又彈琴

入道語心中所願奉行住吉神及十八年之由事又之日遣消息於園邊宿事

入道返哥事

次日又遣書於明石上返書事

帝御夢奉見故院給事

二条太政大臣薨逝事

八月十二三日比乘御馬出園邊宿給事

對面明石上事

遣書於二条院事

源氏書繪給二条院君同書繪給事

二十七歲

正月至上御茶事



明石七月廿日源氏歸京宣告事

明上懷妊事

六月

歸京前二三日向明石上許合物喜惜利事

於難波修葺事

歸京著二条院給事

後本位任權大納給事

并去大

八月十五夜初而參內事

使歸之以遣消息於明石事

案前五節為奉文於源氏事

於運織之以金誠守者勿敢言明日武王有
瘳不欲人聞其後武王既崩
元年乙酉六年庚子崩太子誦代立也為成
王
成王少在襁褓之中周公恐天下聞武王崩而
畔周以公乃踐祚代成王攝行政事而管叔乃
其群弟流言於周曰周公將不利成王於言
於周以誣周公惑成王周公乃告太公望
召公奭我之所以并辟而攝行政者恐天
下畔周無以告我先王之季文王三
王之憂勞天下久矣於今而后成武王登
終成王少將以成周我所以為之若此於
之卒相成王管叔蔡武庚等率淮南

而及周公乃奉成王命而帥東伐遂誅管叔
殺武庚放蔡叔封管叔鮮於管
封管叔度於蔡武度者殷紂也祿又之成王長能聽政於成
王小百就百位躬以謹敬如畏然
初成王病也時病周公乃自揃其坐視之何也視
於神曰王也未有識奸神今者乃且也亦
藏其策於府成王病有瘳乃成王用事人或
諗周公以奔楚成王命府見周公禱書乃泣
及周公以歸
誰周公云蔡既燔書時人敢言金縢之言
或失其本末乃云成王也時病周公禱
河欲代王死藏祝策于府成王用事人
諗周公以奔楚成王命府見策乃泣

周公
尚書才七金滕篇云武王有疾周公作金
滕為請命之書藏之於匱藏之以金示
欲人用 既克高二年王有疾弗豫
公乃自入為功 請命為已事 為三壇同禱
地除史乃用祝曰惟尔元孫未造一廟虎疾
若尔三王是有至子之責于天以且代
其身公歸乃納冊于金滕之匱中王翌
日乃瘳
武王既喪管叔乃其群弟乃流言於國
曰武王死周公攝政其才官叔父蔡叔
霍叔乃故言於國以誣周公以惑成王

公將弗利孺子 三叔周公以人至有以立之
勢遂生流言孺稚成王也
周公乃告二公曰我之弗辟我無以告我先
王 辟法也告于召公太公言我不以法三
叔以我無以成周道告我先王
周公居東二年則眾人所得周既告二公
遂束紆以二年之中眾人所得三監 管叔
蔡叔武庚也
于後公乃為詩以貽王命之曰鴟鴞王亦未
敢謂公 成王信流言而疑周公故周公既
誅三監而作詩解所以宜誅之之意以
遺王 猶未寐故歌讓公未敢
秋大執未獲天大雷電以瓜 二乃

書 僖 大 不 斯 拔 邦 大 恐 王 子 大 夫 盡 舟
以 啓 金 縢 之 書 乃 得 周 公 所 自 以 為 功 代
武 王 之 說 所 藏 諸 本 也 二 公 及 王 乃 曰 諸
史 子 百 執 事 曰 信 噫 公 命 我 勿 敢 言 今
之 則 負 王 執 書 以 泣 曰 昔 公 勤 勞 王 家 惟
予 沖 人 非 及 知 今 三 伯 童 不 及 知 今 天 動 威
以 彰 周 公 德 各 雷 瓜 之 威 以 德 王 出 郊 天 乃 而 友 瓜 未
則 盡 起 瓜 起 以 王 幣 謝 天 即 及 二 公 命 邦 人 凡 大 木 所
僖 盡 起 而 築 之 歲 則 大 熟
公 曰 何 所 不 用 公 且 之 故 事 不 載 之 也 始 有
此 說

形 多 何 所 不 用 三 月 一 日 上 已 後 乃 何 此 之 說
也 可 不 行 尚 年 之 今 係 爲 此 說 之 以 之

卷 八 東 一 傳 何 所 不 用 三 月 一 日 上 已 後 乃 何 此 之 說
也 可 不 行 尚 年 之 今 係 爲 此 說 之 以 之

一 月 一 日 上 已 後 乃 何 此 之 說 也 可 不 行 尚 年 之 今 係 爲 此 說 之 以 之

一 月 一 日 上 已 後 乃 何 此 之 說 也 可 不 行 尚 年 之 今 係 爲 此 說 之 以 之

一 月 一 日 上 已 後 乃 何 此 之 說 也 可 不 行 尚 年 之 今 係 爲 此 說 之 以 之

一 月 一 日 上 已 後 乃 何 此 之 說 也 可 不 行 尚 年 之 今 係 爲 此 說 之 以 之

一 月 一 日 上 已 後 乃 何 此 之 說 也 可 不 行 尚 年 之 今 係 爲 此 說 之 以 之

一 月 一 日 上 已 後 乃 何 此 之 說 也 可 不 行 尚 年 之 今 係 爲 此 說 之 以 之

沙前りりて

糸うきぬりて

あまのけりて

しるし

きくまのり

まのり

さるり

ゆり

火雨雷電

毀諸善人故天降雷電

唐德宗貞元四年四月五日雷落大如彈石

長和二年三月雷鳴氷降大如梅

梅

仁王経

六月雨水霜包

少

天

木

辛

二

中

い

中

い

い

い

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of a historical document. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to the 'Shintō' mentioned in the printed text on the left page.

Handwritten text in cursive style, continuing the transcription. It includes several lines of text, some of which are more legible than others due to the cursive nature of the script.

Handwritten text in cursive style, possibly a section header or a specific entry within the transcription.

日本外云 治權於朝上曰以生神凡有九神
其上筒男命 中筒男命 底筒男命 三神
鎮坐焉 是則今住吉明神也 神功皇后二
十一年 壬午 住吉明神 鎮坐西社 衣通
姫云

國記說或神功皇后云

人故云云 子 食津云々 可也

私大内の人故云云 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

可也 可也 可也 可也

夢中りしは

月をみたり

杜子美、清月滿屋

梁柱疑新木

下はり

幸ひ

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

掃下

夢中りしは

夢中りしは

夢中りしは

中 幸 平 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

平 次 郎 へ 申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

申 上 せ ぬ 松 下 の 幸 平 へ

之味... 言去... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

... 格... 言... 解悦也

あゝ

給ふの心はくらくらして人給師

松 物成印

月々の行と仰あ

山あり心之切

山あり心之切

わが心かき仰

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

山あり心之切

五箇の事... 一... 二...

二... 三...

三... 四...

四... 五...

五... 六...

六... 七...

七... 八...

八... 九...

九... 十...

十... 十一...

十一... 十二...

十二... 十三...

十三... 十四...

十四... 十五...

十五... 十六...

十六... 十七...

十七... 十八...

十八... 十九...

十九... 二十...

二十... 二十一...

二十一... 二十二...

二十二... 二十三...

二十三... 二十四...

二十四... 二十五...

二十五... 二十六...

二十六... 二十七...

二十七... 二十八...

二十八... 二十九...

うねむい中いぬ事御心
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく
しつこいおきく

此亦... 伶倫... 可... 吾書... 絃... 康... 掌... 趙... 而... 暮... 石... 琴... 陽... 亭... 引... 琴... 律... 夜... 分... 忽... 有... 客... 詣... 之... 稱... 乞... 古... 人... 而... 康... 共... 談... 音... 律... 辭... 故... 信... 奇... 目... 素... 琴... 彈... 之... 曰... 為... 廣... 陵... 散... 聲... 泗... 絕... 倫... 逸... 以... 復... 康... 仍... 誓... 不... 傳... 人... 亦... 不... 言... 其... 姓... 字... 新... 抄... 之... 處... 絃... 康... 子... 叔... 夜... 吾... 時... 譙... 回... 人... 也... 康... 所... 岳... 之... 處... 每... 夕... 有... 人... 聲... 悽... 切... 康... 及... 覓... 不... 有人... 仁... 後... 同... 聲... 康... 字... 身... 探... 見... 一... 髑... 髒... 蓋... 鑽... 眼... 眶... 而... 生... 康... 見... 愍... 之... 及... 收... 為... 好... 埋... 葬... 從... 乞... 乞... 不... 同... 悽... 切... 之... 聲... 有... 頃... 於... 夜... 中... 夢... 見... 一... 人... 曰... 我... 見... 伶... 也... 然... 我... 骸... 骨... 散... 野... 為... 蘆... 所... 傷... 不... 堪... 病... 切... 豈... 君...

憐... 愍... 之... 憐... 所... 相... 報... 命... 授... 廣... 陵... 散... 以... 酬... 君... 性... 康... 於... 夢... 中... 度... 之... 竟... 宛... 然... 即... 得... 靈... 異... 志... 云... 絃... 康... 宿... 華... 陽... 亭... 操... 琴... 而... 空... 中... 稱... 善... 中... 散... 曰... 君... 何... 不... 未... 此... 答... 曰... 身... 乞... 古... 人... 出... 發... 出... 此... 數... 千... 年... 矣... 爾... 君... 彈... 琴... 出... 曲... 請... 和... 古... 未... 聽... 而... 就... 終... 殘... 毀... 不... 宜... 及... 以... 琴... 授... 之... 作... 曲... 亦... 不... 常... 唯... 廣... 陵... 散... 絕... 倫... 中... 散... 受... 之... 誓... 不... 得... 教... 他... 人... 或... 書... 曰... 絃... 康... 字... 叔... 夜... 子... 朝... 友... 善... 子... 朝... 傳... 屋... 至... 家... 若... 為... 蛟... 精... 被... 侵... 叔... 夜... 容... 子... 期... 終... 夜... 泗... 琴... 及... 半... 夜... 深... 骨... 骸... 什... 陰... 未... 也... 叔... 曰... 阿... 誰... 答... 曰... 莫... 怪... 我... 竟... 時... 之... 樂... 士... 也... 名... 伶... 倫... 栖... 此... 處... 久... 矣... 然... 屋... 下... 我... 齋... 中... 積... 有... 年... 夢... 之... 故... 未... 訢... 訢... 已... 汝... 為... 名... 社... 之... 為... 幸... 矣... 授... 廣... 陵... 散... 樂... 名... 謝... 曰... 自... 期... 叔... 夜... 琴... 名...

大震于世矣

晋帝詔叔穎令授后不應詔是以終被誅蓋康
將利東市顏視曰影素琴而彈之曰昔表孝尼
嘗以吾字廣陵故吾每新之廣陵故於今絕矣

ふりあすあひあす

あひあすあひあす

何れも本紀云折枝葉人本の葉の十折のり
ふりあすあひあすあひあすあひあす
ふりあすあひあすあひあすあひあす
一説に皺古人あひあすあひあすあひあす
後向の女は説只いふあひあすあひあす
あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす

あひあすあひあすあひあすあひあす


~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

母子在氏女子
嬰病鳥尾

Handwritten text in cursive style, likely a continuation of a letter or document. The text is written vertically from right to left across the page.

Handwritten text in cursive style, likely a continuation of a letter or document. The text is written vertically from right to left across the page.

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

いづれも唯く人の世にまゝにせしむるはゆゑに
ふたふたのこゝろ

川崎のり

中

く

河

二

六

何

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

Handwritten text in cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically from right to left. It appears to be a formal or semi-formal communication, possibly a petition or a report, given the structured nature of the lines and the use of specific characters that might denote titles or dates. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in cursive style, continuing from the previous page. The text is written vertically from right to left. It contains several lines of text, some of which are more densely packed than others, suggesting different parts of a document or a list of items. The handwriting is consistent with the previous page, indicating a single scribe.

のり一紙抄ありしき
ありわらひはかきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

かきりし
かきりし

可成りし事ありていかにしんか
きくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか

くくくくくくくくくくくくく
かかかかかかかかかかかか
かかかかかかかかかかかか


~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on the right page. The text is arranged in approximately 12 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on the left page. The text is arranged in approximately 12 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.







下

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



















う言信を... 信... 中... 本... 令... 寛平... 信...

信... 中... 寛平... 信... 令... 寛平... 信...























あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら

あきら























Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged, yellowed paper. The text is arranged in several lines, starting from the top right and moving downwards. The ink is dark and the paper shows signs of wear and discoloration.



